

書誌紹介

今井昭彦 著

近代日本と高崎陸軍埋葬地

土居 浩

A5判/154+xii+ベージ
本体価格：2,400円+税
2020年6月刊
御茶の水書房

本書は、前著『近代群馬と戦没者慰霊』(今井 二〇二〇)に引き続き、群馬県の戦没者慰霊の有りよう、中でも陸軍埋葬地の創設期に焦点を絞り考察した、著者の五作目となる単著である。本書帯文の惹句「陸軍埋葬地」の歴史民俗学」また「軍都」高崎での事例をもとに陸軍埋葬地(墓地)の有りようについて、詳細な墓碑調査を通じて描き出す」が、本書の概要を端的に述べている。

本書の章構成は、次のとおり。

- はしがき
- 一 はじめに「カミとホトケ」
- 二 戊辰戦役と招魂祠・招魂社の創建
- 三 鎮台設置と戦兵令発布
- 四 高崎兵營と陸軍埋葬地の創設
- 五 埋葬者の実態
- 六 佐賀の乱・熊本の乱・西南戦役と戦没者
- 七 歩兵第十五連隊と「群馬・秩父事件」
- 八 むすび―陸軍埋葬地の系譜をめぐって―

参考文献

索引(巻末)

著者は成城大学の森岡清美セミで学び、それ以来、四〇年近くの長きにわたり、近代日本の戦没者慰霊研究に取り組みおられる。著者自身が「三部作」(今井 二〇〇五、二〇一三、二〇一八)と呼ぶ旧著公刊時点で、すでに金字塔と呼ぶに相応しい研究成果を提示した著者であるが、なお歩みを進めている様子が前著(今井 二〇二〇)に示されていることは、前著の書評で述べた(土居・今井 二〇二二)。

著者は本書を、前著の「二番煎じ」と謙遜するが、文字通り受け取ってはいけない。たとえば前著では言及するに留めた、近代陸軍埋葬地の系譜を赤穂義士墓所からとする見解が、本書「むすび」では踏み込んで論じられ、前著からさらに考察を深めたことが、うかがえる。

著者の最新研究成果である本書は、同時に、これまでの著者の研究成果への入門書ともなることを、期待したい。著者これまでの単著に比べ判型も小さく価格も抑えつつ、参考文献、人名索引、事項索引が付された本書は、その条件に過うだろう。

【参考文献】

- 今井昭彦 二〇〇五 『近代日本と戦死者祭祀』 東洋書林
- 今井昭彦 二〇一三 『反政府軍戦没者の慰霊』 御茶の水書房
- 今井昭彦 二〇一八 『体外戦争戦没者の慰霊―敗戦までの展開―』 御茶の水書房
- 今井昭彦 二〇二〇 『近代群馬と戦没者慰霊』 御茶の水書房
- 土居・今井昭彦 二〇二二 『書評とリアライ』 『宗教と社会』二七

日本民俗学

目次

- 論文
 - 墓のmetabolism―阿墓制埋葬地サンマイにおける「美德」の発生と墓地管理システム― 大地 真帆 1
 - 戦後社会における旧華族神職家の継承
 - ―阿蘇神社宮司三代の事例― 柏木 亨介 33
- 研究ノート
 - 近海カツオ一本釣り漁業の操業実態と外国人技能実習生について
 - ―高知県中土佐町久礼の「丸を例にとって― 増崎 勝敏 69
- 書評
 - 加藤幸治著『津波とクジラととペンギンと
 - ―東日本大震災10年、牡鹿半島・鮎川の地域文化』 川島 秀一 81
 - 和田健著『経済更生運動と民俗
 - ―1930年代の官製運動における介在と変容―』 若本 通弥 86
 - 鈴木由利子著『選択される命―子どもの誕生をめぐる民俗―』 伏見 裕子 91
- 書誌紹介 97
- フォーラム
 - 民俗学から見る神武東征の意義
 - ―合わせて、稲作の伝来・仮面の系譜・エビス神についても― 下野 敏見 111
 - コロナ禍のお産
 - ―妊産婦と家族にとつての「思いがけないお産」― 安井真奈美・中本 剛二・伏見 裕子 120
- 学会記事 127

307